

アフリカのモノカルチャー経済の変化

東京都中学校教諭

1. はじめに ～アフリカ州を大観すると～

平成24年度用『中学校社会科地図』（以下、新地図帳）p.39の資料図「①アフリカ州の自然と生活」から、アフリカ州を大観してみる。

土地利用と植生の面からその特色を生徒に問えば、「砂漠とサバナがかなりの部分を占めている」という答えが期待できる。

そこで、砂漠やサバナの様子を写真で見せると、「このような地域で人々が農業を営み、生活することは可能なのだろうか」という疑問が生まれてくる。教材としての景観写真には、アフリカという地域に親しみを抱かせ、追究したい課題を見出させることができる長所はあるが、逆に、たとえば砂漠やサバナによってアフリカのイメージが固定化されてしまうという欠点もある。資料図で大観する段階で、アフリカ州には様々な国や地域があり、イメージとは異なる様々な特色にも目を向けさせなければならない。

2. アフリカ州の農業の特色

新地図帳p.39①の資料図からは、アフリカ州のおもな農産物とその産地についても読み取ることができる。アフリカ州は、ヨーロッパ州と比べると、全体に占める農地面積の割合は低いが、地中海沿岸、ナイル川流域、サヘル地帯、エチオピア高原、ビクトリア湖周辺、ギニア湾沿岸などでは畑作が営まれている。これらの地域の農産物にどのような共通点が見られるかを考えさせれば、アフリカ経済の特色にもせまっていくことができよう。



図1 「中学校社会科地図」 p.39①

図1から読み取れる地理的事象

- コーヒー（豆）や茶など、嗜好品の生産がさかんな国がある。
- ギニア湾沿岸諸国では、カカオ（豆）の生産がさかんである。
- サハラ砂漠のように雨の少ない地域でも、なつめやしが栽培されている。
- 穀物の生産は、地中海沿岸における小麦栽培のように、一部の地域でしか行われていないようである。

図1から予想できることから

- コーヒー（豆）や茶、カカオ（豆）はアフリカ諸国にとって重要な輸出品になっているのではないか。

新地図帳p.146「③世界の統計」から、アフリカ州のおもな輸出品については、予想通りであることを確認できる。

3. アフリカ諸国の輸出品の特色

アフリカ経済を象徴的に示す資料が、図2である。モノカルチャー経済とは、わずかな種類の産物の輸出だけにたよっている経済状況をさしている。

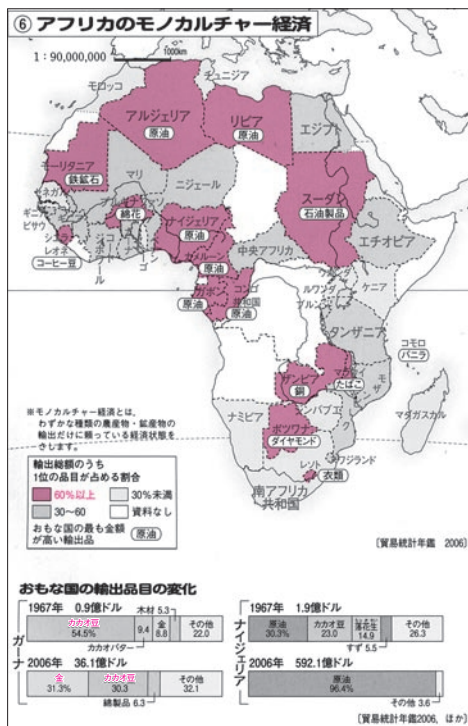


図2 「中学校社会科地図」 p.40⑥

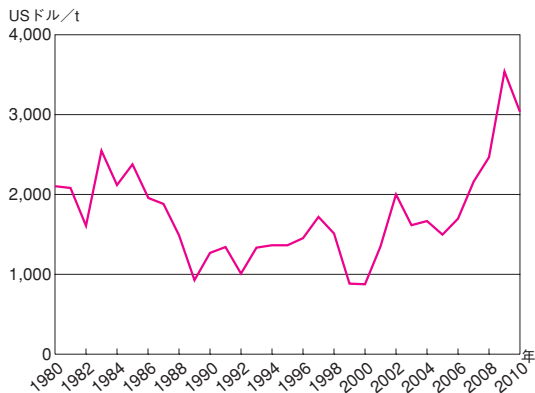
カルチャーといえば日本語では「文化」と訳されるのが一般的だが、cultureの語源は、「耕作された土地」という意味のラテン語である。cultureを英和辞書で調べさせれば「(土地の) 耕作」「栽培」「産物」という意味もあり、「モノカルチャー」は「単一耕作」や「単一栽培」と訳せることがわかる。

アフリカ州には、ヨーロッパ諸国の植民地支配を受けた歴史がある。植民地経営の一環として、プランテーションという大規模な農園で栽培されたガーナのカカオ豆は、1957年に独立した後も、国の外貨獲得の手段として重要な役割を果たしていたことが、図2の下のグラフから読み取れる。

モノカルチャー経済の国には、限られた輸出品の国際価格の変動により、国家の収入が不安定になりやすいという課題があることは、生徒にも容易に予想することができる。

図3を見ると、ここ30年間では1990年代に

カカオ豆の国際価格が低迷していたことがわかる。国の経済を安定させるためには、経営の多角化を進める必要があり、ガーナでは、金の輸出がさかんになるなどの変化が見られている。

図3 カカオ豆の国際価格の変動
出典：IMF Primary Commodity Prices

4. 資源大陸としてのアフリカ

輸出品や国内での食料作物の種類を増やし、モノカルチャー経済からの脱却を図る努力がみられる一方で、ナイジェリアのように原油輸出に依存するようになった国もある。ガーナでも、2007年に沖合で油田が発見され、今後の経済成長への寄与が注目されている。

また、金やダイヤモンド、銅のほか、携帯電話やコンピュータの生産に欠かせない希少金属（レアメタル）を産出する国もあり、資源分野の投資に乗り出す日本企業が近年増え始めている。アフリカ経済の発展に、日本も大きくかかわり始めているのである。

5. アフリカの「いま」を知る手ごろな本

- ・山田肖子編著『アフリカのいまを知ろう』岩波ジュニア新書 2008年
- ・平野克己監修『日本人が知っておきたいアフリカ53カ国のすべて』PHP文庫 2011年
- ・白戸圭一著『日本人のためのアフリカ入門』ちくま新書 2011年